平成 29 年度古津八幡山遺跡発掘調査（第 20 次）現地説明会資料

平成 29 年 11 月 4 日（土）
新潟市文化財センター

１．古津八幡山遺跡の概要

古津八幡山遺跡遠景（北東から）

標高約 50mの丘陵上にある弥生時代後期（約 2000 年前）の大規模な高地性環濠集落で、古墳時代中期（約 1600 年前）には県内最大の古墳である古津八幡山古墳が築かれます。

弥生時代から古墳時代にかけての変遷や、北陸や東北との地域間関係など、当時の日本列島の社会情勢を考える上で核となる重要な遺跡であることから、平成 17 年に国の史跡に指定されました。

弥生時代の環濠に囲まれる範囲は南北 400m、東西 150mほどです。これまでの発掘調査で竪穴住居が 50 棟以上、方形周溝墓３基、前方後方形周溝墓１基が確認されています。環濠は幅・深さとも約２ｍで、Ｖ字の形をしています。この時期、中国の歴史書の中で「倭国乱」の記述が見られることなどから戦いに備えたムラと考えられています。

また、古墳時代の古津八幡山古墳は直径 60mの円墳で、越後平野の広い範囲を治めた豪族の墓と推定されています。

2004(平成 16)年より整備事業を始め、主要エリアの整備が終わった 2012(平成 24)年から古津八幡山遺跡歴史の広場として全面供用を開始しています。

これまでに竪穴住居７棟や環濠・土塁、方形周溝墓２基、前方後方形周溝墓１基、古津八幡山古墳の復元整備などを実施しています。

２．今年度の発掘調査の目的と主な成果

（１）目的

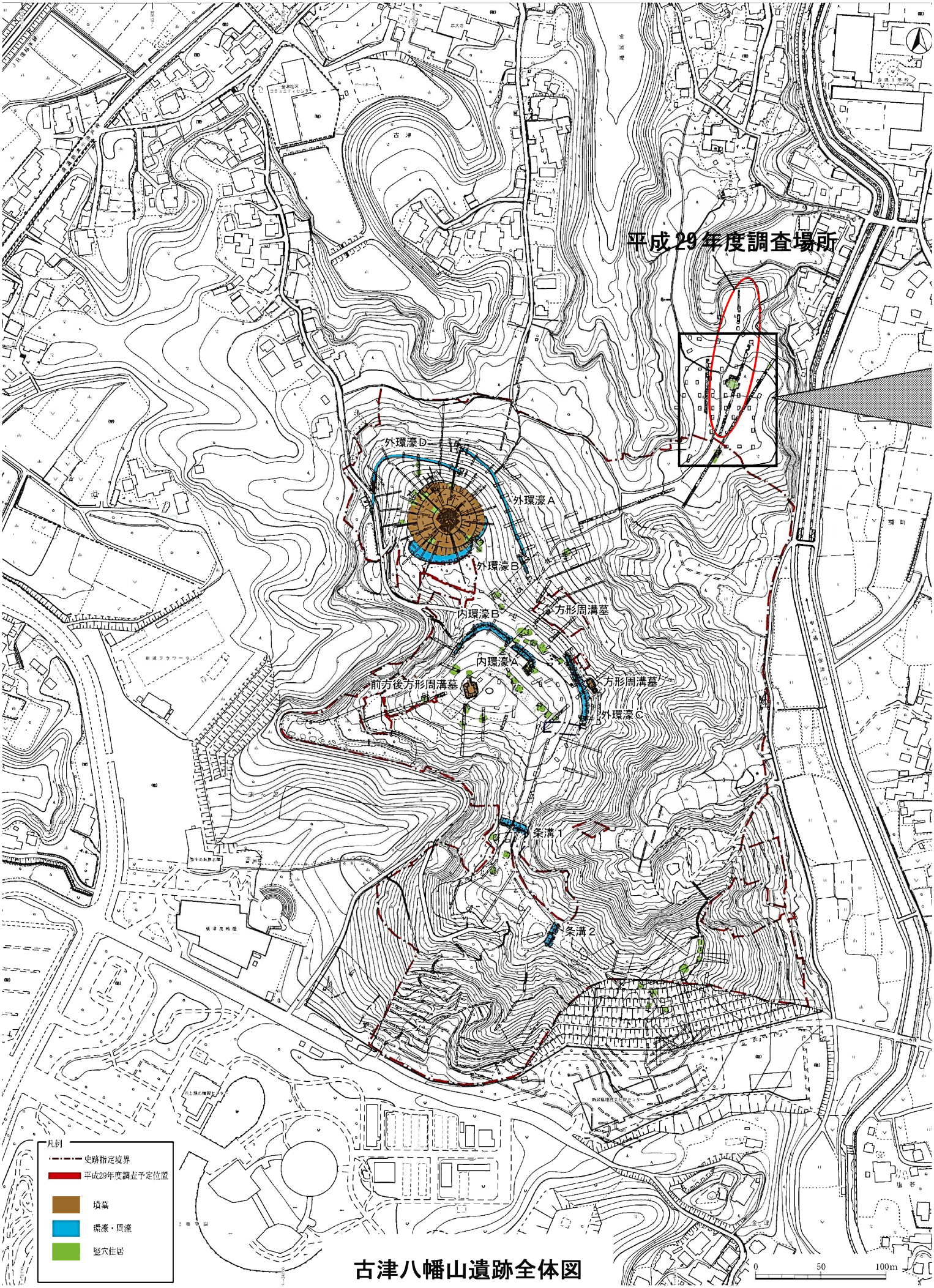
史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外における遺跡の状況を把握することを目的とした調査です。今年は史跡北東域の指定地外の場所について、地権者様のご理解・ご協力のもと発掘調査を実施させて頂いております。

（２）主な調査成果

これまでに、縄文時代後期と弥生時代後期・終末期を中心とした遺構や遺物が見つかっています。遺構は、竪穴住居が１棟、溝が 23 条、大きな穴が２基、柱穴などの小さな穴が 92 基、性格不明のものが 14 基です。溝の中には、第２次世界大戦前後の食糧難の時代に利用された畑の畝の跡があります。

柱の痕跡（破線部分）のある穴（P70）

①掘立柱建物　柱の痕跡のある穴が計 16 基見つかりました。掘立柱建物の柱穴と考えられます。柱穴は出土


平成29年度調査場所
外環濠D
外環濠A
外環濠B
内環濠B
方形周溝墓
内環濠A
前方後方形周溝墓
方形周溝墓
外環濠C
条溝1
条溝2
凡例
史跡指定境界
平成29年度調査予定位置
墳墓
環濠・周濠
竪穴住居
0
50
100m

古津八幡山遺跡全体図

柱の痕跡のある穴（P52）

柱の痕跡のある穴（P47）

竪穴住居推定範囲

平成 15（2003）年度調査区（第 14 次調査）

平成 29（2017）年度調査区（第 20 次調査）

柱の痕跡のある穴（P55・62）

柱の痕跡のある穴（P48）

：竪穴住居

：柱の痕跡のある穴

平成 15（2003）年度調査区（第 14 次調査）

0　10m

0　10　20m

平成 29 年度発掘調査区及び周辺平面図

土器などから、多くが弥生時代後期後半のものと推測されます。比較的密に分布しており、複数の掘立柱建物の存在が推測されます。

②竪穴住居　規模や構造の確定は来年度の課題ですが、一辺が７ｍ以上と推定される角が丸く四角い形をした竪穴住居が１棟見つかりました。時期は、出土土器から弥生時代の終わり頃と考えられます。古津八幡山遺跡でこれまで見つかっている竪穴住居の中では最大級です。

竪穴住居全景（北西から）

３．まとめ

今回の発掘調査によって弥生時代の古津八幡山遺跡の実像がより明らかになってきました。

①弥生時代後期後半の土地利用

これまでの調査で掘立柱建物は見つかっておらず、物資の保管場所の解明は課題の一つでした。今回見つかった複数の柱穴からは、調査地周辺に弥生時代後期後半の倉庫群が存在する可能性が高いと考えられます。

弥生時代後期後半には、丘陵の一番高い場所に環濠で囲まれた集落があり、今回調査した一段低い平場の空間を利用して物資を貯蔵するための倉庫群を設けていた可能性が高まってきました。平地に比較的近い緩斜面は、水や米などの物資を運び入れるのには好都合な立地と言えます。

②弥生時代の集落の変遷

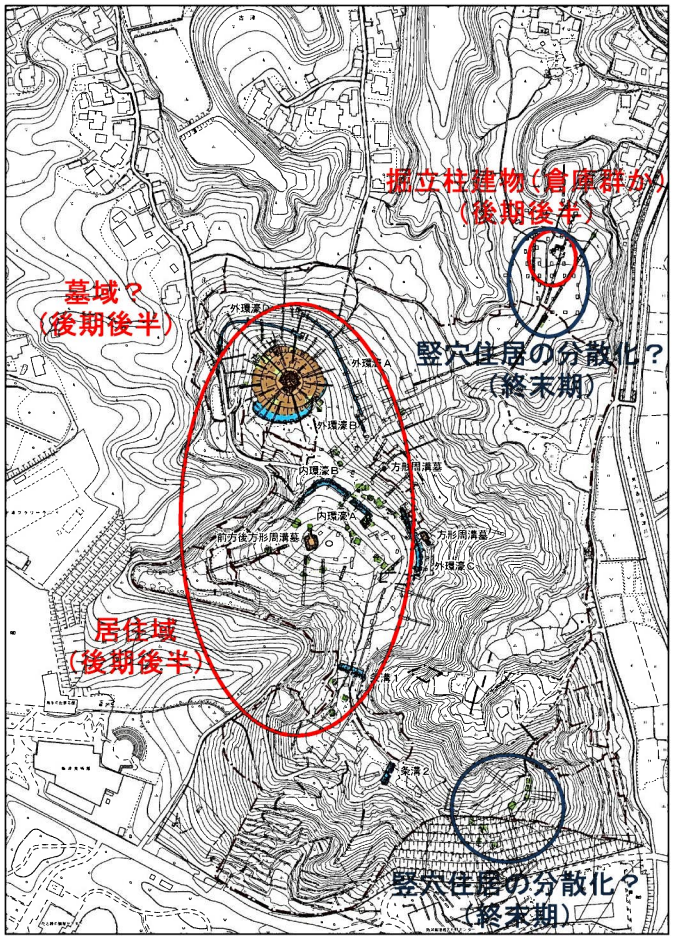
これまでの発掘調査で竪穴住居は53棟見つかっています。竪穴住居を時期別に見てみると、弥生時代後期後半には丘陵上の環濠に囲まれた範囲を主に居住域として利用していたと考えられます。

それに対し、弥生時代の終わり頃（終末期）になると竪穴住居の分布は環濠の外側にも広がる傾向が見られます。この時期はすでに環濠の一部が埋まっている段階で、環濠の機能が低下している頃です。最高所にある前方後方形周溝墓はこの時期のものと推測されます。

③今後の課題

来年は今年見つかった竪穴住居の規模や構造の解明に加え、柱穴の広がりを確認して掘立柱建物の規模や棟数などを明らかにしていく予定です。

また、今後は弥生時代の墓域や環濠、古代の製鉄遺構の有無などについても確認していく予定です。



古津八幡山遺跡における弥生時代の土地利用推定図